**蔵 王 町**

# 【パラオ共和国】ホストタウン　蔵王町の取組

## １　「ホストタウン」登録に至るまでの経緯（詳細は別添カラー資料をご覧下さい。）

■【蔵王町とパラオ共和国との関わり】
■【パラオ関係者蔵王町訪問】
■【天皇皇后両陛下蔵王町行幸啓】
■【パラオ共和国「未来への交流・絆」訪問団の派遣】
■【ホストタウンとしての登録】

## ２　交流計画の概要　（詳細は別添カラーＡ４横資料をご覧下さい。）

## ３　これまでの取組（詳細は別添カラー資料をご覧下さい。）

■【蔵王町常陸大宮市東京オリパラ推進協議会設立】
■【綜合警備保障（株）（アルソック）とオリンピックに係る協力協定締結】
■具体的な取り組み〈２０１８年度まで〉
・日本オリンピック委員会主催「オリンピックデー・フェスタ」開催
・「アスリートの生き方に学ぶ」開催
・「オリンピック・パラリンピックムーブメントｉｎ蔵王」開催
・パラオ共和国「未来への交流・絆」スポーツ訪問団派遣
・事前キャンプ時の施設使用に係る協定書締結式開催
・パラオ共和国事前キャンプ実施（アーチェリー・柔道）

### 今後行おうとしている取り組み（詳細は別添カラー資料をご覧下さい。）

・パラオの子ども達との相互交流（樹氷鑑賞　⇔　マリンスポーツ体験等）
・オリンピアン・パラリンピアンとの交流（ＪＯＣオリンピック教室　スポーツ講演会開催）
・障害者スポーツ大会の誘致等（車いすバスケット全日本合宿誘致）
〈２０１９年度以降～〉
・東京２０２０大会に向けてパラオ選手団事前合宿受け入れ
・オリンピアン・パラリンピアンとの交流　（ＪＯＣオリンピック教室，スポーツ講演会を含む）
・オリンピック応援団編成　（北原尾住民や地元小学生など）
・障害者スポーツに対する理解と共生を学ぶ取り組み
・英語教育　（英語教育特区指定決定）　及び平和教育 ⇒ 教育の充実による人材育成

## ４　今後の取組への課題，国等への要望

- **聖火リレールートに係る仙南地域への配慮**

# 2020東京オリンピック・パラリンピック

## 宮城県蔵王町は
## 「パラオ選手団を温かく歓迎し力強く応援します」

### 歴史的背景
・訪問団絆の派遣
・小さな町の身の丈にあった
　おもてなし

### 地域間広域連携
・常陸大宮市との連携
・オリパラ推進協議会の設置

### こども達の交流・スポーツ交流
・事前合宿の誘致（キャンプ交流）
・ブルーシー＆グリーンランド（青い海と緑の大地の中での
　国際交流の展開
・オリンピアンとの交流（夢と希望を後押しする取り組み）
・地域資源であるゲートボールを活用した世代間交流

### 企業との連携
・民間活力と連携した取り組み

### 夢への挑戦
・冬季オリンピック出場へ向けた
　挑戦の後押し
・人材の輩出

# 2020年東京オリンピック・パラリンピック
# 「ホストタウンとしての蔵王町の取組」

資料

## ■【蔵王町とパラオ共和国との関わり】

パラオ共和国は、国際連盟により日本が委任統治を受けて以来、多数の日本人が移住し、日本と歴史的にも深い関係がありました。昭和２０年第二次世界大戦で、南洋のパラオ島で終戦を迎え、後に蔵王町内の遠刈田温泉「北原尾地区」に開墾入植した方々やその子孫の方々が在住しています。

北原尾地区は、入植時に南洋のパラオを忘れないように「北のパラオ」＝「北原尾」（きたはらお）と命名された経緯があります。

▲北原尾入植当時の家族写真

## ■【パラオ関係者蔵王町訪問】

平成１３年にトミー・レメンゲサウ大統領、平成２６年には、駐日パラオ共和国大使館特命全権大使が蔵王町を訪問。

歴史的にゆかりのある「北原尾」で入植した子孫と交流を行いました。

▲平成１３年パラオ大統領が蔵王町を訪問しました。

## ■【天皇皇后両陛下蔵王町行幸啓】

戦後７０年の節目の年に、太平洋戦争で激戦地となったパラオ共和国をご訪問されたことがきっかけとなり、平成２７年６月１７日に蔵王町遠刈田温泉北原尾地区を行幸啓されました。入植した北原尾の人たちに労いのお言葉をかけていただき、この年の御製では、北原尾のことを詠まれております。

その１年後の平成２８年７月１７日に、両陛下ご訪問を記念して「行幸啓」記念碑が、訪れた地に建てられました。

▲平成２７年６月１７日に天皇皇后両陛下が蔵王町を行幸啓されました。

## ■平成２７年度　【パラオ共和国「未来への交流・絆」訪問団の派遣】

平成２８年１月１６～２０日、町政施行６０周年の記念の年を迎え、蔵王町はパラオ共和国との交流を深めることを目的に派遣交流事業を実施。

入植関係者及び一般町民など１０人で組織した訪問団がパラオ共和国を訪れ、地域住民との交流や地元の小学生に日本文化の伝承、副大統領や官房長官、国務大臣、教育大臣などと面会し、さらなる「絆」を育み、未来に向けた交流の礎を築きました。

▲ベルズ副大統領と絆交流（写真上）
パラオの子どもが日本の習字を学ぶ（写真下）

## 【ホストタウンとしての登録】

平成２８年１月２６日、蔵王町がパラオ共和国のホストタウンに１次登録決定。茨城県常陸大宮市はこれまで戦没者の遺骨収集でパラオ共和国と交流してきた経緯があり、平成２８年６月１４日、２次登録でホストタウンに決定しました。平成２９年１月２３日内閣府で、連携した取り組みについて、丸川大臣との意見交換も実現いたしました。

▲平成２９年１月丸川オリンピック担当大臣（当時）を表敬訪問

## 【蔵王町常陸大宮市東京オリパラ推進協議会設立】

平成２８年７月蔵王町役場で、両市町においてパラオ共和国選手団の事前キャンプの受入れや同国との相互交流の実現に協力し、さらには、両市町の交流も深めることで合意。

こうした経緯を踏まえ、２０２０年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に出場するパラオ共和国選手団の事前キャンプ地誘致を、積極的かつ効果的に進め両市町が同じ思いでパラオ共和国選手団を全面的に支援し、同国とのさらなる友好関係の構築を図るとともに、これらの取組を通して両市町の交流を進めていくため、平成２８年１２月２２日「蔵王町常陸大宮市東京オリパラ推進協議会」を設立しました。

更には、平成２９年４月２１日東京に於いて東京オリンピックに向けて事前合宿誘致に係る基本合意書の締結を、パラオ共和国・蔵王町・常陸大宮市との３者間で行いました。

▲蔵王町・茨城県常陸大宮市・パラオ共和国の３者で行われた締結式（東京）

## 【綜合警備保障㈱（アルソック）とオリンピックに係る協力協定締結】

平成２８年１２月２２日、蔵王町がパラオ共和国のホストタウンに登録されたことを受けて、綜合警備保障からのオリンピックに係るご協力をさせていただきたいとの提案があり、協力協定を締結いたしました。事前合宿の支援や所属選手との交流事業などを展開して参ります。昨年２月に開催したスポーツ交流会にゲストとして、八木かなえ選手をお招きし、参加した小学生との間で交流を深めたところです。

## 【具体的な計画と取り組み】

### ■平成２９年度

- **日本オリンピック委員会主催「オリンピックデー・フェスタ」開催（平成29年11月23日）**

　Ｂ＆Ｇ海洋センターで東日本大震災の被災３県を対象に、ＪＯＣ主催のオリンピアンとのスポーツ交流事業を蔵王町で開催しました。

▲メダリストとのスポーツ交流をしたり、走るのが早くなるためのコツなどの質問コーナーもありました。

- **「アスリートの生き方に学ぶ」開催（平成29年12月19日）**

　遠刈田中学校を会場に、パラリンピック選手（車イスバスケット選手）を招き、選手とのふれあいや経験談を聴くことを通して困難に負けない強い気持ち（勇気）の大切さを学びました。

▲宮城ＭＡＸの車いすバスケットチームの貴重な講演に中学生たちは興味津々でした。

- **「オリンピック・パラリンピックムーブメント in 蔵王」開催（平成30年1月11日）**

　大会出場選手等（車イスバスケット選手）との体験交流を通じて、オリンピック・パラリンピックへの理解及び参加意識を深めました。

▲実際に競技用の車いすに乗ってバスケットボールを体験しました。

- **パラオ共和国「未来への交流・絆」スポーツ訪問団派遣事業（平成30年1月13日~17日）**

　スポーツ団体関係者（町体育協会、仙台大学、日本ＧＢ連合）や経済会、福祉関係者でスポーツ訪問団を組織して、パラオ共和国を訪問し、事前合宿受け入れや子どもたちの相互訪問事業に向けて話し合いの場がもたれました。

▲パラオ共和国トミー・レメンゲサウ大統領と今後の交流に向けて堅い握手を交わしました。
（マルキョク大統領府）

## ■平成２９年度

- **事前キャンプ時の施設使用に係る協定書締結式開催（平成30年2月26日）**

　平成３０年度以降、パラオ共和国の事前キャンプの種目に対応するため蔵王町及び白石市、角田市柴田町、仙台大学等近隣市町の体育施設を使用させていただき、スポーツを介した相互連携や広域的な協力体制を整えるとともに東京２０２０大会に向けて、スポーツ観光振興の推進により地域活性化を図ります。

## ■平成３０年度

- **パラオ共和国事前キャンプ実施（アーチェリー・柔道）（平成30年6月12日～7月15日）**

　平成３０年度から、蔵王町と茨城県常陸大宮市を会場に事前キャンプを実施。蔵王町ではアーチェリーと柔道の強化選手が滞在し、技術の向上と地域住民との交流を通して絆を深めるとともに、東京２０２０大会の代表選手と選出されるよう、平成３０年度以降も実施予定。

▲３人のアーチェリー強化選手が体験会の指導や七夕作りで幼稚園を訪問。女子柔道選手は小学校で交流したり、仙台大学で技術を学びました

- **パラオの子ども達との相互交流（樹氷鑑賞　⇔　マリンスポーツ体験等）**
- **オリンピアン・パラリンピアンとの交流（JOCオリンピック教室、スポーツ講演会を含む）**
- **障害者スポーツ大会の誘致等（車いすバスケ全日本合宿誘致）**

## ■平成３０年度以降～

- **東京2020大会に向けてパラオ選手団事前合宿受け入れ**
- **オリンピアン・パラリンピアンとの交流（JOCオリンピック教室、スポーツ講演会を含む）**
- **オリンピック応援団編成（北原尾住民や地元小学生など）**
- **障害者スポーツに対する理解と共生を学ぶ取り組み**
- **英語教育（英語教育特区指定決定）及び平和教育　⇒　教育の充実による人材育成**